

図 土砂災害警戒区域等を重ね合わせた線路平面図（その3）

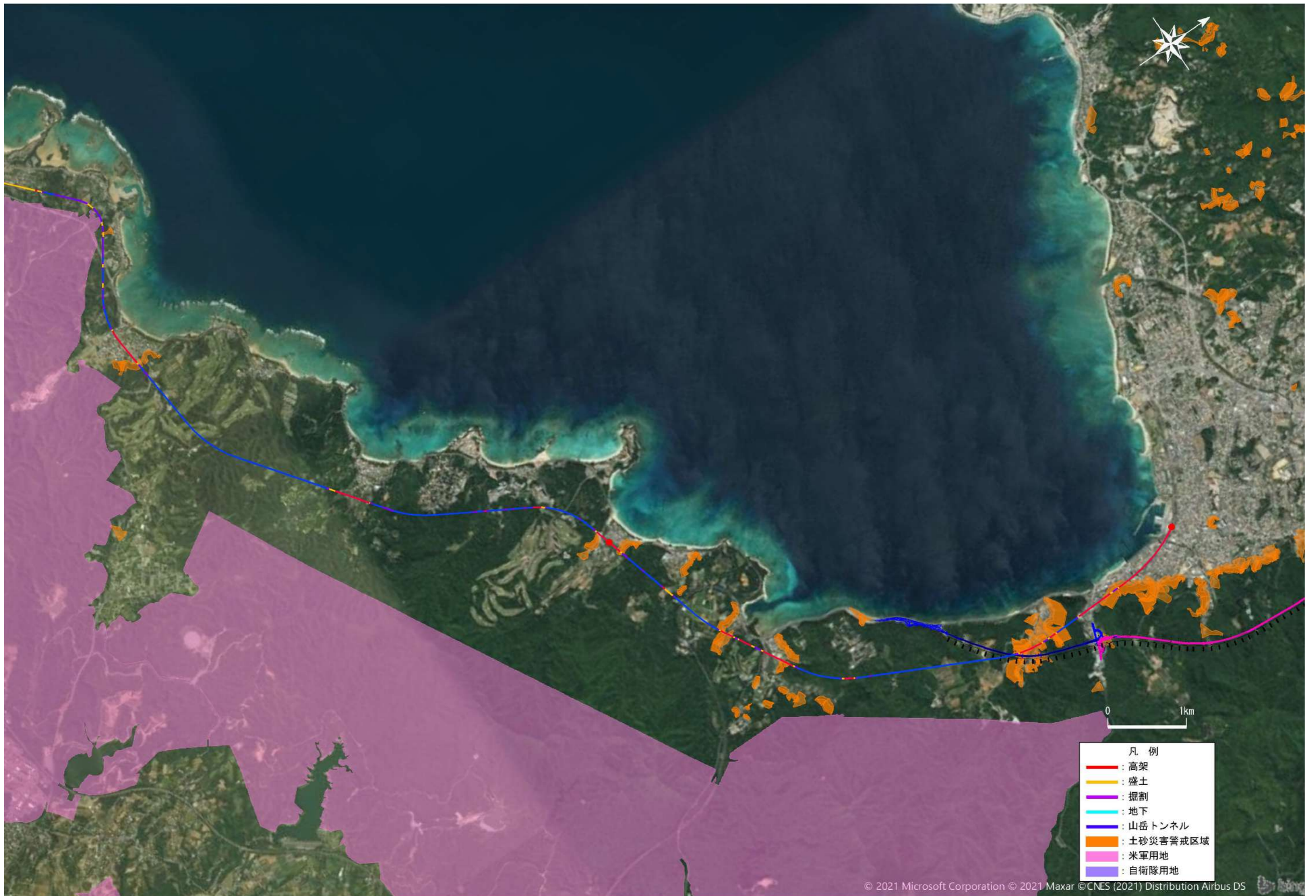


図 土砂災害警戒区域等を重ね合わせた線路平面図（その4）

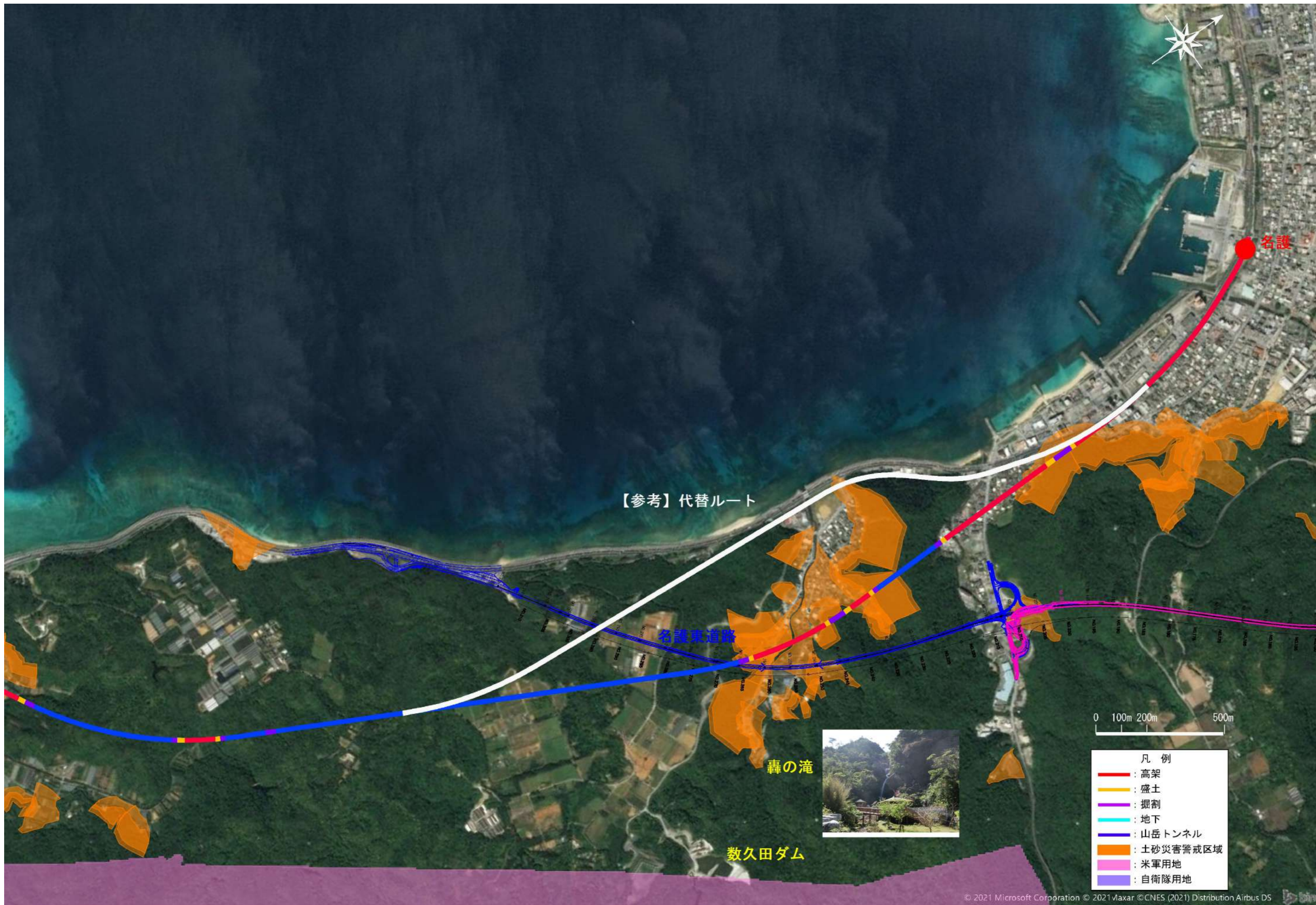


図 土砂災害警戒区域等を重ね合わせた線路平面図（許田地区・名護間）

土砂災害警戒区域等を踏まえた代替ルート（許田地区・名護間）の概算事業費を以下に示す。
 代替ルート（許田地区・名護間）の概算事業費は、約 8,700 億円であり、基本ルートの概算事業費と殆ど差異はなかった。

表 【参考】代替ルート（許田地区・名護間）の概算事業費

システム	ケース	検討区間	ルート			路線延長	概算事業費 (令和元年価格)
			経由地	那覇～普天間	うるま～名護		
鉄道	ケース 2	糸満市役所～名護 ＋空港接続線	うるま	国道 330 号 (主に地下構造)	恩納 (西海岸ルート)	79.48km	約 8,700 億円
鉄道	ケース 2	糸満市役所～名護 ＋空港接続線	うるま	国道 330 号 (主に地下構造)	恩納 (西海岸ルート) ・ 代替ルート (許田地区・名護間)	79.46km	約 8,700 億円

注) 概算事業費は、消費税及び建設利息を含まない金額である。

(2) 洪水浸水想定区域を踏まえたモデルルートの精査

1) 洪水浸水想定区域の整理

平成 16 年に多発した水害を踏まえ、平成 17 年の水防法が改正され、主要な中小河川にも浸水想定区域の対象が拡大された。沖縄県においても浸水想定区域を指定することになり、沖縄本島中南部圏域における河川について検討を行い、河川の浸水想定区域を指定した。

平成 27 年の水防法改正を受け、「想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域」の公表を順次進めており、沖縄県では 2 級河川指定区間（沖縄県管理区間）における洪水浸水想定区域図を作成している。なお、沖縄県には 1 級河川は存在しない。

平成 27 年の水防法改正にかかる洪水浸水想定区域とは、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により当該河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測し、浸水した場合に想定される区域や水深を表示した図である。

そのため、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模による氾濫や支川の氾濫、高潮及び内水による氾濫等は反映していないため、洪水浸水想定区域図に記載されていない箇所においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がある。

洪水浸水想定区域図は浸水想定区域をその地域に含む市町村長が、円滑かつ迅速な避難を確保するために作成する、いわゆる、洪水ハザードマップを作成する際にも活用されている。

2) 洪水浸水想定区域を踏まえたモデルルート of 精査

洪水浸水想定区域を踏まえたモデルルートの精査結果を以下に示す。

表 洪水浸水想定区域を踏まえたモデルルートの精査結果

対象河川	モデルルートの精査結果
国場川水系国場川	● 洪水浸水が想定される区域においては、モデルルートは地下構造または高架構造のため、線路には特に対策は必要ないが、駅出入口等には止水板や嵩上げ等の対策が必要である。
安里川水系安里川・真嘉比川・久茂地川	● 洪水浸水が想定される区域においては、モデルルートは地下構造または高架構造のため、線路には特に対策は必要ないが、駅出入口等には止水板や嵩上げ等の対策が必要である。
安謝川水系安謝川	● モデルルート上には、洪水浸水が想定される区域はない。
比謝川水系比謝川	● 洪水浸水が想定される区域においては、モデルルートは地下構造のため、特に対策は必要ない。
天願川水系天願川	● 洪水浸水が想定される区域においては、モデルルートは高架構造または盛土構造のため、特に対策は必要ない。

次頁以降に、モデルルート（ケース 2 及びケース 7）と洪水浸水想定区域を重ね合わせた線路平面図を示す。